令和9年度(2027年度)入学者選抜の実施に係る第2次公表(予告)について

山口県立大学では、令和9年度(2027年度)入学者選抜に係る変更について、令和6年6月28日 に公表(予告)した。

このたび、公表(予告)内容に以下のとおり変更が生じたことから、第2次予告として公表する。

- 1 国際文化学部国際文化学科の一般選抜前期日程及び学校推薦型選抜の評価基準を変更。 「9ページ、16ページ、19ページ]
- 2 国際文化学部文化創造学科の一般選抜後期日程及び学校推薦型選抜の評価基準を変更。 [10ページ、16ページ、20ページ]
- 3 国際文化学部情報社会学科の一般選抜及び学校推薦型選抜の評価基準を変更。 [11ページ、17ページ、21ページ]
- 4 社会福祉学部社会福祉学科の一般選抜、学校推薦型選抜及び総合型選抜の評価基準を変更。 [12ページ、17ページ、21ページ、25ページ]
- 5 看護栄養学部看護学科の一般選抜及び学校推薦型選抜の評価基準を変更。 [13ページ、18ページ、22ページ]
- 6 看護栄養学部栄養学科の学校推薦型選抜の評価基準を変更。[18 ページ、22 ページ]
- 7 国際文化学部国際文化学科及び情報社会学科の総合型選抜の評価基準及び合否判定基準を変更。 [23ページ、25ページ]
- 8 国際文化学部国際文化学科及び看護栄養学部看護学科の総合型選抜の出願要件の一つである CEFR 基準について、対象となる資格や基準値等を追加。[23ページ、26ページ]
- 9 国際文化学部文化創造学科の総合型選抜の試験科目等、評価基準及び合否判定基準を変更。 [24ページ]
- 10 看護栄養学部の総合型選抜の評価基準及び合否判定基準を追加。[26ページ、27ページ]

なお、このたびの公表内容はあくまでも予定であり、今後内容が変更となる可能性がある。 変更があった場合は、随時本学のホームページにて通知する。

令和9年度(2027年度)入学者選抜の実施について

1 基本方針

山口県立大学が定めた「入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)」に基づき、「学力の3要素」である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」及び「主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度」を多面的・総合的に評価する入学者選抜を行う。

2 入学者受入れの方針(アドミッション・ポリシー)

(1) 国際文化学部 国際文化学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、国内外の多様な文化や価値観について学ぶための基礎的な知識や理解力と 語学力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

国内外における多様な文化や価値観について自分の考え・意見をまとめ、論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々と信頼関係を構築し、地域の国際化や多文化共生に積極的に挑戦しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

国際文化学科では、地域の国際化や多文化共生社会の実現に貢献できる人材の育成を目標とした教育を行っています。そのため、高等学校段階までのすべての教科の基礎的な知識・技能と積極的に学ぼうとする態度が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」: 基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「外国語(英語)」: 基礎的な文章理解力、表現力、思考力、コミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」及び「理科」: 高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力
- ▶「数学」及び「情報」: 高等学校教育課程修了にふさわしい基礎的な学力とその学力を地域のデジタル化推進のため に主体的に活用しようとする姿勢
- ▶ その他、「芸術」、「家庭」、「保健体育」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心を持ち、新しい 課題に対して積極的に取り組もうとする態度を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

					-	一般選抜	ί				学校	推薦型	選抜								
入	試	種	別	育	前期 日程	1	後期	日程	県	人内高校	枠		地域貢 発掘			総	合型選	抜	外国人	.留学生	選抜
				大学入学			大学入学								活動	一次 選抜	選	次 抜	日本留学		
選	抜	方	法	共通テスト	小論文	面接	共通テスト	面接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	報告書	自 己 推薦書	講 義理解力試 験			小論文	面接
素			点	700	200	100	700	200	150	100	50	150	100	50	100	100	200			50ヶ部ね	나고
評 佃	i の	比 重((*1)	70	20	10	78	22	50	33	17	38	25	13	25	100	67	33	- 総合的に評価。		1190
	《知識	技能》		0	0		0		0		0	0		0			0		0	0	0
評価の	《思考 表現	力・判断 力》	行力・	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0		0	0
組占	多様	性を持っ な人々と 学ぶ態度	協働			0		0		0	0		0	0	0	0	0	0			0

^(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(2) 国際文化学部 文化創造学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、地域文化の探究と創造について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

ことばや絵・デザインなどの情報を駆使して、日本文化や地域文化の価値について、自らの思考や判断を伝え表現することができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々と交流し、地域文化の活性化に貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

文化創造学科では、日本文化や地域文化への深い理解を持ち、地域社会のデジタル化の推進や新たな地域をデザインする力をもって地域文化の活性化に貢献できる人材の育成を目標としています。そのため、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」: あらゆる科目の基礎として必要な、読解力、論理的な思考力、表現力及びコミュニケーション能力の他、 日本文化や地域文化を学ぶうえでの基礎的な知識や技術
- ▶「外国語(英語)」: 文化に関することがらを普遍的に考えるために必要な外国語能力と読解力、及び外国語で自ら の考えを表明する表現力とコミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」: 将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力、及び問題解決に主体的に取り組む姿勢を取るために必要な能力
- ▶「数学」及び「情報」:基本的な概念や原理・法則をよく理解したうえでの知識と計算力、論理的思考方法及びデータを理解し活用する基本的なスキル並びに地域のデジタル化推進に取り組む姿勢を取るために必要な能力
- ▶「理科」: 基礎的な知識、及び様々な自然現象について科学的な観点から探究しようとする態度
- ▶ その他、「芸術」など、あらゆる分野にわたって基礎的・常識的な知識と関心、新しい課題に対する積極性や地域 文化の活性化に取り組む姿勢を取るために必要な能力を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

						一般選抜	友				学校	推薦型達	選抜								
入	試	種	別	Ē	前期日和	2	後期	日程	県	具内高校	忰		地域貢 発掘			総	合型選	发	外国人	留学生	選抜
															活動報告書	一次 選抜		.次 抜			
選	抜	方	法	大学入学共通テスト	小論文	面 接	大学入学共通テスト	面 接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	による プレゼン テーション	自 己推薦書	個 人 プ゚レセ゚ン テーション				面接
素			点	700	150	50	700	200	200	100	50	200	100	20	80	100	200	100	総合的に評価		·
評 佃	i の	比 重(*1)	78	17	6	78	22	57	29	14	50	25	5	20	100	67	33			195
	《知識	・技能》		0	0		0		0		0	0		0			0		0	0	0
評価の観点	《思考 表現	:力・判断 力》	力・	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0		0	0
19九/六	多様	性を持っ な人々と 学ぶ態度	協働			0		0		0	0		0	0	0	0	0	0			0

^(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(3) 国際文化学部 情報社会学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために 必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、情報技術を用いた課題解決について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

課題解決のために収集した情報を解釈し、自分の考え・意見をまとめ、分かりやすく伝え表現することができる。 《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

異なる文化や多様な考えを持つ人々を受容し、情報技術を活用して地域が抱える課題の解決を行おうとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

この世界はたくさんの情報から成っています。しかし、情報は、それを見つける力を持たなければ手にすることはできません。情報社会学科では、この「情報を見つける力」を獲得し、さまざまなところから情報を取得し活用することを目指します。そして情報の活用により人々をつなぎ、世界を良くする人材を育成します。そのためには、高等学校段階までの幅広い領域の学力が必要です。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」: あらゆる科目の基礎として必要な、読解力及び解釈力、また論理的な思考力・表現力
- ▶「外国語(英語)」: 外国語で書かれた文章の読解力や解釈力、外国語で自らの考えを表明する表現力
- ▶「地理歴史・公民」: 将来、地域社会や世界において良識ある人物として活躍できるための知識・探究力及び問題 解決に必要な能力
- ▶「数学」及び「情報」: 数式やプログラム等によって世界が記述できるという考え方及び基本的な概念や原理・法 則の理解
- ▶「理科」: 科学的な観点・思考及び各領域における基本的な知識や法則
- ▶ その他、ここに掲げていない分野(「芸術」や「保健体育」など)や課外活動等にも積極的に取り組んでおくこと が望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

					_	一般選抜	ξ				学校	推薦型達	選抜								
入	試	種	別	自	 前期日程	1	後期	日程	県	具内高校	枠		地域貢 発掘			総	合型選	抜	外国人	、留学生	選抜
選	抜	方	法	大学入学	小論文	面接	大学入学共通テスト	面接	小論文	面接	調査書	小論文	面接	調査書	活動報告書	一次自己	講 義 理解力		日本留学 試 験		面 接
																推薦書	試 験				
素			点	700	150	50	700	200	150	100	50	160	100	60	80	100	200	100	₩ △ ₩	コノマミズム	r-1- z
評価	fi の	比 重	(*1)	78	17	6	78	22	50	33	17	40	25	15	20	100	67	総合的にi 37 33		リィー音千年	1190
	《知識	技能	>>	0	0		0		0		0	0		0			0		0	0	0
評価の観点	《思考 表現	·力・判 .力》	断力・	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0		0	0
既尽	多様して	性を持 な人々 d 学ぶ態!	と協働			0		0		0	0		0	0	0	0	0	0			0

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、社会福祉の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

誰もが幸せに暮らせる社会の実現について他者とともに語らい、自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や社会に関心があり、他者を理解し共感しながら福祉社会の実現のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

社会福祉学科では、社会福祉の理論や実践を学ぶために、高等学校段階の教育課程を幅広く修得し、国語・英語の基礎能力を基盤としつつ、社会への関心を強く持ち、社会における課題を解決するための基礎的な能力を身に付けておくことが望まれます。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」: 基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力・思考力
- ▶「英語」: 基礎的な読解力・表現力・コミュニケーション能力
- ▶「地理歴史・公民」、「数学」、「情報」及び「理科」: 高等学校教育課程修了にふさわしい学力
- ▶「福祉*」: 社会福祉の基礎的な知識 *福祉科や総合学科など、「社会福祉基礎」等を学ぶ教育課程がある高等学校等
- ▶ その他、探究的な見方・考え方を身に付け、課題解決を行うための基礎的な能力を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

-	_		445	E.I		一般	選抜			学校推薦	專型選抜			o A milyaa kii.	
入	討	ζ	種	別	前期	日程	後期	日程	県内高	高校枠		献人材 屈枠	养	総合型選抜	
					大学入学		大学入学					活動	一次 選抜		次 抜
選			方	法	共通テスト	面 接	共通テスト	面 接	面接	調査書	面接	報告書	自 己 推薦書	個 人 プレゼン テーション	面 接
素				沪	600	500	600	500	200	50	200	100	100	100	200
評	価	の比	重((*1)	55	45	55	45	80	20	67	33	100	33	67
		《知識	・技能》)	0	0	0	0	0	0	0			0	
評価の	評価の観点		カ・判断 カ》	f力・	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
			生を持つ な人々。 学ぶ態度	と協働		0		0	0	0	0	0	0	0	0

^(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(5) 看護栄養学部 看護学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、看護の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

人をとりまく様々な現象に自ら疑問を持ち、事実をもとに自分の意見をまとめて伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

人や看護に関心があり、責任感や協調性を持って保健医療福祉のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

看護学科では、社会の変化に対応し、地域のあらゆる人々の健康の維持・増進と生活の質の向上を推進するために、幅広い分野の知識と技術を習得し、看護を実践する能力や多職種協働のできる能力を培います。そのために、高等学校段階での教育課程を幅広く習得し、大学での学びの基礎となる基礎学力を身に付けておくことが望まれます。特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」及び「外国語(英語)」:文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力、多様な 人々とコミュニケーションをとるための能力
- ▶「地理歴史・公民」: 物事を社会的視点から理解する能力
- ▶「数学」及び「情報」: 数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的な コンピュータリテラシーやデータの取扱いの基礎的能力
- ▶「理科」: 生命現象を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探究力
- ▶ その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

入	試	種	別		一般	選抜				学校推薦	專型選抜		
人	弘人	任里	Д1	前期	日程	後期	月日程	県	人内高校林	Ļ	地域貢	(献人材発	掘枠
選	抜	方	法	大学入学 共通テスト	面 接	大学入学 共通テスト	面接	総合問題	面 接	調査書	総合問題	面 接	活動報告書
素			点	700	200	600	300	250	200	50	250	100	100
評 個	j o	比	重 (*1)	78	22	67	33	50	40	10	56	22	22
	《知識・技	能》		0	0	0	\circ	0	0	0	0	0	
評価の観点	《思考力・	判断力・表現	見 力》	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	《主体性を して学ぶ!	持って多様な 態度》	人々と協働		0		0		0	0		0	0

入	弒	種	別	*Ki	総合型選抜	ž.
				一次 選抜		_次 星 抜
選	抜	方	法	自 己推薦書	個 人 プレセン テーション	面接
素			点	100	200	100
評 価	0	比	重 (*1)	100	67	33
	《知識・技能	É»			0	0
評価の観点	《思考力・半	川断力・表現	見力》	0	0	0
	《主体性を持 して学ぶ態		な人々と協働	0		0

(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

(6) 看護栄養学部 栄養学科のアドミッション・ポリシー

① 求める学生像

教育課程編成・実施の方針に定める教育を通して、卒業認定・学位授与の方針に定める学修の成果をあげるために必要な、次に掲げる学力を備えた人を求めます。

《知識·技能》

高等学校の教育課程を幅広く修得し、栄養管理の理論や実践について学ぶための基礎的な知識や理解力を身に付けている。

《思考力・判断力・表現力》

社会における様々な課題について多面的に考察し、自分の意見を論理的に分かりやすく伝えることができる。

《主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度》

食と健康に関心があり、責任感や協調性を持って人々の健康福祉のために貢献しようとする意欲がある。

② 高等学校段階までの学習で身に付けてほしいこと

栄養学科では、少子・超高齢社会において、地域のあらゆる人々の健康と生活の質の向上を積極的に推進するために、対人援助力、課題解決思考力及び多職種協働力を備えた質の高い専門性を有する管理栄養士の育成を目的としています。このような質の高い管理栄養士となるために、必要とされる幅広い基礎的な能力を高等学校段階の教育課程で身に付けておくことが望まれます。そのため、特に、教科別に身に付けてほしいことを次に掲げます。

- ▶「国語」及び「外国語(英語)」: 文意を正確に読み取る読解力、論理的思考力、自らの考えを表現する力及び多様な人々とコミュニケーションをとるための能力
- ▶「地理歴史・公民」: 物事を社会的視点から理解する能力
- ▶「数学」及び「情報」: 数学の基本的な概念や計算の基礎、論理的思考力、データサイエンスを学ぶための基本的な コンピュータリテラシーやデータの取り扱いの基礎的能力
- ▶「理科」: 生命現象や食品の特性を理解するうえで必要となる生物や化学等の自然科学の基礎的知識と科学的思考力と探究力
- ▶ その他、特別活動や課外活動を通じて培った積極性や責任感、主体性、協調性を備えていることが望まれます。

③ 入学者に予め身に付けておくことを求める学力と入学者選抜方法の対照表

_			·n	D.I.		一般	選抜			学校推薦	專型選抜		,	A Milyaa I.I.	
入	討	₹	重	別	前期	日程	後期	日程	県内高	高校枠	地域貢 発捷	献人材 屈枠	术		
					大学入学		大学入学					活動	一次 選抜		.次 抜
選	扐	ž 2	方	法	共通テスト	面接	共通テスト	面接	面接	調査書	面接	報告書	自 己 推薦書	プレセン	面接
素				沪	700	100	800	200	200	100	200	100	100	200	100
評	価	の比	重 (;	* 1)	88	13	80	20	67	33	67	33	100	67	33
		《知識・	技能》		0		0		0	0	0			0	
評価の	の観点	《思考力 表現力》		力・	0	0	0	0	0	0	0		0	0	0
		《主体性 多様な して学	人々と ぶ態度	:協働	? ?2d++-+->√+-	0		(0/) 75 t	0	0	0	0	0	一 選 個 人 プレセン デーション 200 67	0

^(*1)各入試種別の合計点に対する選抜方法ごとの素点の割合(%)であり、小数点以下を四捨五入した。

3 入試区分・種別、募集人員

- 入試区分は、「一般選抜」、「学校推薦型選抜」、「総合型選抜」、「外国人留学生選抜」とする。
- 「一般選抜」は「分離・分割方式」(前期日程・後期日程)により行う。
- 学校推薦型選抜は、「県内高校枠」及び「地域貢献人材発掘枠」とする。「県内高校枠」と「地域貢献人材発掘枠」 との併願は認めない。
- 各入試種別の募集人員は以下のとおりとする。

「ロフト時代里力」でフタ	米八貝はのー・	7 C 40 7 (_ / 20					
					募集	人員		
24.1	N. 41	入学	一般	選抜	学校推薦	專型選抜		外国人
学部	学科	定員	前期 日程	後期 日程	県内高校枠 (附属高校 枠含む)	地域貢献人材 発 掘 枠	総合型 選 抜	留学生 選 抜
	国際文化	50	16	4	16	9	5	若干名
国際文化	文化創造	45	15	3	14	8	5	若干名
	情報社会	40	12	3	13	7	5	若干名
社会福祉	社会福祉	87	28	7	28	15	9	_
看護栄養	看 護	55	21	3	22	5	4	_
1 世本食	栄 養	42	18	2	12	8	2	_

^{*}総合型選抜において、合格者が各学科の募集人員に満たない場合は、その欠員分を一般選抜(前期日程)の募集人員に加えます。

^{*}学校推薦型選抜の県内枠は附属高枠(最大 20 名程度)を含みます(附属高校枠は県内高校枠に含まれるので、その合格者が募集人員を満たさない場合、空き人員は附属高校以外の県内高校の枠となる)。

^{*}学校推薦型選抜において、合格者が各学科の募集人員に満たない場合は、その欠員分を各学科の一般選抜(前期日程)の募集人員に加えます。

^{*}社会福祉学部では、外国人留学生選抜の募集はありません。

^{*}看護栄養学部では、外国人留学生選抜の募集はありません。

4 入学者選抜方法等

【一般選抜】

全学科共通事項

- 各学科のアドミッション・ポリシーに基づいて評価する。
- 調査書の記載内容は、面接の参考として利用する。

学科別事項

(1)国際文化学部 国際文化学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須/選択	配	点						
	国語	「国語」	必須	250 (*2)							
大学入学	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」									
共通テストの 教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目 (*1)	100	700						
[3 教科 3 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	(*1)								
	情報	「情報Ⅰ」									
	外国語	「英語」	必須	350 (*3)							
個別学力検査等	・小論文			200	300						
旭 加子刀恢宜等	・面接「集	団面接」		100	300						
評価基準	【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理解力、思考力・ 判断力を占数化して評価する										
合否判定基準	とする意欲・態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力を点数化して評価する。 大学入学共通テストの得点と個別学力検査等の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、個別学力検査等の小論文、大学入学共通テストの外国語「英語」の順に得点が高い者を上位とする。										

国語	配点										
大学入学 共通テストの 教科・科目 [3 教科 3 科目] 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」「地理総合/歴史総合/公共」 数学 「数学 I,数学 A」「数学 II,数学 B,数学 C」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」「物理」「化学」「生物」「地学」 情報 「情報 I」 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/ 地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」 (*1) 個別学力検査等 ・面接「集団面接」 2	250 (*2)										
教科・科目 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 (*1) [3 教科 3 科目] 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 情報 「情報 I」 外国語 「英語」 個別学力検査等 ・面接「集団面接」											
[3 教科 3 科目] 理科 「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」 情報 「情報 I」 「情報 I」 外国語 「英語」 必須 個別学力検査等 ・面接「集団面接」 2	100 700										
外国語 「英語」 必須 3 (名) 個別学力検査等 ・面接「集団面接」 2											
外国語 「央語」 個別学力検査等 ・面接「集団面接」 2											
	350 (*3)										
【面接】	200 200										
l 詳価表售 l	【面接】 集団面接を行い、国内外における社会的・文化的諸問題への関心度とその原因や背景について追求しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判断力・表現力を総合的に										

^(*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。

- ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
- ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として 採用する。
- ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。
- (*2) 大学入学共通テストの「国語」(200点) に 5/4 を乗じたものを得点とする。
- (*3)大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング (100 点) に 5 / 2 を乗じたものとリスニング (100 点) の合計を得点とする。 ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング (100 点) の素点に 7 / 2 を乗じたものを得点とする。

(2) 国際文化学部 文化創造学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須/選択	配	点						
	国語	「国語」	必須	250 (*2)							
大学入学 共通テストの	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」									
教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択2科目 (*1)	200	700						
[4 教科 4 科目又 は3 教科 4 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	(*1)								
	情報	「情報 I 」									
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)							
個別学力検査等	・小論文			150	200						
旭 別子刀恢宜寺	・面接「集	団面接」		50	200						
評価基準	・面接「集団面接」 50 50 「小論文】 「小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上での読解力、構成力、論理的思考力、発想力及び表現力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。										
合否判定基準		通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得 点の場合は、個別学力検査の面接、個別学力検査の小論文の順に									

試験区分	教科	科目	必須/選択	配	点						
	国語	「国語」	必須	250 (*2)							
大学入学 共通テストの	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	'로뉴 이 지 ㅁ								
教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択2科目 (*1)	200	700						
[4 教科 4 科目又 は 3 教科 4 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	(*1)								
	情報	「情報Ⅰ」									
	外国語	「英語」	必須	250							
	71 11 11 11	7.000	27,9	(*3)							
個別学力検査等	・面接「作	固人面接」		200	200						
評価基準	【面接】 個人面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。										
合否判定基準	や思考力、表現力を点数化して評価する。 大学入学共通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。 合計点が同点の場合は、個別学力検査の面接、大学入学共通テストの「国語」の順に得点が高い者を上位とする。										

- (*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目から2科目の得点を採用する。
 - ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
 - ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、地理歴史・公民から2科目のみ又は理科から2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、第1解答科目、第2解答科目の得点を共に採用する。
 - ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目を数学の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4 教科のうち、数学2科目のみを受験し、他の3教科を受験していない場合は、数学の2科目の得点を共に採用する。
- (*2) 大学入学共通テストの「国語」(200点) に 5/4 を乗じたものを得点とする。
- (*3)大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング(100 点)に 2 を乗じたものとリスニング(100 点)に 1/2 を乗じたものの合計を得点とする。ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング(100 点)の素点に 5/2 を乗じたものを得点とする。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

《前期日程》

試験区分	教科	科目	必須/選択	配	点							
	国語	[国語]	必須	250 (*2)								
大学入学	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	選択1科目	100								
共通テストの 教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	(*1)	100	700							
[4 教科 4 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」										
	情報	「情報Ⅰ」	必須	100								
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)								
個別学力検査等	・小論文			150	200							
旭 加子刀恢宜寺	・面接「∮	集団面接」		50	200							
評価基準	【小論文】 <mark>情報</mark> が持つ価値や社会とのさまざまな接点について自分の考えをまとめる上で必要な読解力、分析力、文章の構成力、思考力・表現力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や思考力・表現力を点数化して評価する。											
合否判定基準		<mark>思考力・表現力</mark> を点数化して評価する。 大学入学共通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する 合計点が同点の場合は、個別学力検査の面接、個別学力検査の小論文の順に得点が高い者を上位とっ る。										

試験区分	教科	科目	必須/選択	配	点						
	国語	「国語」	必須	250 (*2)							
大学入学	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	選択1科目	100							
共通テストの 教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	(*1)	100	700						
教科・科目 [4 教科 4 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」									
	情報	「情報Ⅰ」	必須	100							
	外国語	「英語」	必須	250 (*3)							
個別学力検査等	・面接「集	団ディスカッション」		200	200						
評価基準	【面接】 集団ディスカッションを通じて、異なる文化や多様な考えを持つ人々の間に立ち共生を目指す上で求められる意欲や思考力・表現力を点数化して評価する。										
合否判定基準		大学入学共通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。 合計点が同点の場合は、個別学力検査の面接、大学入学共通テストの「情報」の順に得点が高い者を上									

- (*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。
 - ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
 - ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として 採用する。
 - ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。
- (*2) 大学入学共通テストの「国語」(200点) に 5/4 を乗じたものを得点とする。
- (*3) 大学入学共通テストの外国語「英語」のリーディング(100 点)に 2 を乗じたものとリスニング(100 点)に 1/2 を乗じたものの合計を得点とする。ただし、受験上の配慮により、リスニングを免除された者については、リーディング(100 点)の素点に 5/2 を乗じたものを得点とする。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

《前期日程》

	教科	科目	必須/選択	西西	点			
大学入学	国語	「国語」	必須	200				
	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」						
共通テスト の教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目 (*1)	200 (*2)	600			
[3 教科 3 科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	(*1)	(42)	000			
	情報	「情報Ⅰ」						
	外国語	「英語」	必須	200 (*3)				
個 別 学 力 検 査 等	・面接「∮	[] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [] [500	500			
評価基準	【面接】 評価基準 集団面接を行い、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション 論理的思考力を点数化して評価する。							
合否判定基準		共通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得 司点の場合は、個別学力検査等の面接の得点が高い者を上位とする。		を決定で	する。			

	教科	科目	必須/選択	西西	点						
	国語	「国語」	必須	200							
大学入学 共通テスト	地理歴史・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	교 1 1 2 1	000							
の教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目 (*1)	200 (*2)	600						
[3教科3科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	(*1)	(*2)	000						
	情報	「情報Ⅰ」									
	外国語	「英語」	必須	200 (*3)							
個 別 学 力 検 査 等	• 面接「绚	集団ディスカッション・個人面接」		500	500						
評価基準	集団ディン 度及び他を 個人面接で	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。									
合否判定基準		共通テストの得点と個別学力検査の得点の合計で順位を決め、高得 司点の場合は、個別学力検査等の面接の得点が高い者を上位とする。		と決定す	する。						

- (*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。
 - ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
 - ②地理歴史・公民から 2 科目又は理科から 2 科目受験している場合、得点にかかわらず、第 1 解答科目の得点をその教科の得点として採用する。
 - ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。
- (*2)大学入学共通テストの選択科目(100点)に2を乗じたものを得点とする。
- (*3)受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング (100 点) の素点に 2 を乗じたものを得点とする。

(5) 看護栄養学部 看護学科

《前期日程》

	教科	科目	必須/選択	配	点					
	国語	「国語」	必須	200						
大学入学	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	選択1科目 (*1)	100						
共通テスト の教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目	100	700					
[5 教科 5 科目]	情報	「情報Ⅰ」	(*1)	100	100					
[0 17]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目 (*1)	100						
	外国語	「英語」	必須	200 (*2)						
個 別 学 力 検 査 等	・面接「個	固人面接」		200	200					
評価基準	【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を して、態度、理解力、 <mark>判断力・表現力、主体性、</mark> 社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対 関係能力、適性等を点数化して評価する。									
合否判定基準		共通テストの得点と個別学力検査等の得点の合計で順位を決め、高 気が同点の場合は、個別学力検査等の面接の得点が高い者を上位と		音を決定	す					

	教科	科目	必須/選択	酉	点								
	国語	「国語」	必須	200									
大学入学	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目	100]								
共通テスト	情報	「情報Ⅰ」	(*1)	100									
の教科・科目 [4教科4科目]	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目 (*1)	100	600								
	外国語	「英語」	必須	200 (*2)									
個 別 学 力 検 査 等	・面接「個	固人面接」		300	300								
評価基準	して、態度	【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、 <u>判断力・表現力、主体性、</u> 社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人 関係能力、適性等を点数化して評価する。											
合否判定基準		+通テストの得点と個別学力検査等の得点の合計で順位を決め、高 気が同点の場合には、個別学力検査等の面接の得点が高い者を上位		音を決定	きす								

- (*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。
 - ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
 - ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として 採用する。
 - ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。
- (*2)受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング (100 点) の素点に 2 を乗じたものを得点とする。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

《前期日程》

	教科	科目	必須/選択	酉己	点							
	国語	「国語」	必須	200								
大学入学	地理歴史 ・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	選択1科目 (*1)	100								
共通テスト の教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目	100	700							
[5 教科 5 科目]	情報	「情報Ⅰ」	(*1)	100	100							
	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目 (*1)	100								
	外国語	「英語」	必須	200 (*3)								
個 別 学 力 検 査 等	・面接	「集団面接」		100	100							
評価基準	【面接】 集団面接 価する。	集団面接を行い、志望理由及び勉学への興味等について論理的に分かりやすく伝える力を点数化して評										
合否判定基準		共通テストの得点と個別学力検査等の得点の合計で順位を決め、高 [。] 点が同点の場合は、大学入学共通テストの得点が高い者を上位とす		ずを決定	す							

	教科	科目	必須/選択	西西	点
	国語	[国語]	必須	200	
大学入学	地理歴史・公民	「地理総合,地理探究」「歴史総合,日本史探究」 「歴史総合,世界史探究」「公共,倫理」「公共,政治・経済」 「地理総合/歴史総合/公共」	選択1科目(*1)	100	
共通テスト の教科・科目	数学	「数学Ⅰ,数学A」「数学Ⅰ」「数学Ⅱ,数学B,数学C」	選択1科目	150	800
[5 教科 5 科目]	情報	「情報Ⅰ」	(*1)	(*2)	000
	理科	「物理基礎/化学基礎/生物基礎/地学基礎」 「物理」「化学」「生物」「地学」	選択1科目 (*1)	150 (*2)	
	外国語	「英語」	必須	200 (*3)	
個 別 学 力 検 査 等	・面接	「集団面接」		200	200
評価基準	【面接】 集団面接る て評価する	を行い、志望理由及び健康科学への興味等について論理的に分かっ る。	りやすく伝える力	アション	化し
合否判定基準		共通テストの得点と個別学力検査等の得点の合計で順位を決め、P 点が同点の場合は、大学入学共通テストの得点が高い者を上位と	*********	かき きょうかん かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい かいかい か	す

- (*1)指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の① \sim ③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。
 - ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
 - ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。
 - ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。
- (*2)大学入学共通テストの選択科目(100点)に3/2を乗じたものを得点とする。
- (*3)受験上の配慮により、大学入学共通テストのリスニングを免除された者については、リーディング (100点) の素点に2を乗じたものを得点とする。

【参考】一般選抜における大学入学共通テストの教科・科目選択について

- 1) ■国際文化学部 国際文化学科・情報社会学科
 - ■社会福祉学部 社会福祉学科
 - ■看護栄養学部 看護学科・栄養学科

指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目の得点を採用する。

- ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
- ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。
- ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目の得点を数学の得点として採用する。

【国際文化学科の例(3教科3科目)】

教科	科目	大学指定	得	景点	採否	結果	備考
国語	「国語」	必須		160	0	200	得点に5/4を乗じたもの
地歴	第1解答科目		а	70			
公民	第2解答科目			90	×		②により除外する
***	数学①から1科目	\====		50	×		③により除外する
数学	数学②から1科目	選択 1 _{科目}	b	60			
理科	第1解答科目	▮枠目	С	40			
理科	第2解答科目			60	×		②により除外する
情報	「情報Ⅰ」		d	80	0	80	a~dで最も得点の高い科目
外国語	「英語」リーディング	必須		60	0	150	得点に5/2を乗じたもの
ア国語	「英語」リスニング			80	0	80	
合計	合計					510	

2) ■国際文化学部 文化創造学科のみ

指定された教科・科目の範囲内で、必要とする教科・科目数を超えて受験している場合、次の①~③の条件を加えた上で、最も得点の高い科目から2科目の得点を採用する。

- ①地理歴史・公民は1教科とみなす。
- ②地理歴史・公民から2科目又は理科から2科目受験している場合、得点にかかわらず、 第1解答科目の得点をその教科の得点として採用する。ただし、地理歴史・公民、数学、 理科及び情報の4教科のうち、地理歴史・公民から2科目のみ又は理科から2科目のみを 受験し、他の3教科を受験していない場合は、第1解答科目、第2解答科目の得点を共に 採用する。
- ③数学から2科目を受験した場合、得点の高い科目を数学の得点として採用する。ただし、 地理歴史・公民、数学、理科及び情報の4教科のうち、数学2科目のみを受験し、他の 3教科を受験していない場合は、数学の2科目の得点を共に採用する。

【文化創造学科(4教科4科目(基本))の例】

教科	科目	指定	得点	採否	結果	備考
国語	「国語」	必須	160	0	200	得点に5/4を乗じたもの
地歴	第1解答科目		a 85			
公民	第2解答科目		90	×		②により除外する
数	数学①から 1科目	選択	b 95	0	95	a~dで最も得点の高い科目
学	数学②から 1科目	2	88	×		③により除外する
理	第1解答科目	科目	c 90	0	90	a~dで2番目に得点の高い 科目
科	第2解答科目		40	×		②により除外する
情報	「情報I」		d 60			
外	「英語」 リーディング	必必	60	0	120	得点に2を乗じたもの
国語	「英語」 リスニング	須	80	0	40	得点に1/2を乗じたもの
	合	it i			545	

【文化創造学科(3教科4科目)の例】

教科	科目	指定	得点	採否	結果	備考
盟題	「国語」	必須	160	0	200	得点に5/4を乗じたもの
地	第1解答科目		85	0	85	
歴公民	第2解答科目		90	0	90	②により採用する (他の教科を受験していない)
数	数学①から 1科目	選択				
学	数学②から 1科目	<mark>2</mark>				
理	第1解答科目	目				
科	第2解答科目					
情報	「情報I」					
外	「英語」 リーディング	必	60	0	120	得点に2を乗じたもの
国語	「英語」 リスニング	須	80	0	40	得点に1/2を乗じたもの
	合計					

【学校推薦型選抜】

I 県内高校枠

全学科共通事項

- 県内高校枠は、山口県内に所在地のある高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を 試験実施年度の3月に卒業(修了)見込みの者を対象とする。
- 各学科のアドミッション・ポリシーに基づいて評価する。
- 調査書、推薦書及び志望理由書については、面接の参考として利用する。

学科別事項

(1) 国際文化学部 国際文化学科

	国际人化于科		
出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者 4 国際文化学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	≿ 2027 年	3月に
	評価対象	配	点
34 EQ 40 D MY	・小論文	150	
試験科目等	・面接「集団面接」	100	
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(全体の学習成績の状況)	50	300
評価基準	【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理解判断力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接(英語面接を含む)を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度及背景を追求しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・半して評価する。なお、英語面接では、英語で与えられた質問に対し、英語での応答と自己れる。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。	なびその原 川断力を点 土表現がオ	京因や 京数化 さめら
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。	ぎする。台	計点

(2) 国際文化学部 文化創造学科

国际人儿子印	人比制起于行				
出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者 4 文化創造学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	≥ 2027 年	3月に		
	評価対象	配	点		
試験科目等	・小論文 ・面接「集団面接」	200 100			
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(全体の学習成績の状況)	50	350		
【小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上での読解力、構成力、論理的思考力、発想力及び表現力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々と共に地域文化を創造する上で求められる意欲や思考力、表現力を点数化して評価する。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。					
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。	ごする。 合	計点		

(3) 国際文化学部 情報社会学科

出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.6以上の者 4 情報社会学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	≥ 2027 年	3月に		
	評価対象	配	点		
試験科目等	・小論文・面接「集団面接」	150 100			
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(全体の学習成績の状況)	50	300		
【小論文】					
合否判定基準 小論文及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定するが同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			合計点		

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を卒業(修了)見込みの者 2 志望動機が明確であり、社会福祉学科に対する適性を有する者 3 人物・性行等、所属又は出身学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 4 学業成績優秀の者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
	評価対象	配	点		
試験科目等	・面接「集団ディスカッション・個人面接」	200			
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(全体の学習成績の状況)	50	250		
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく 態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論 理的思考力を点数化して評価する。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。				
合否判定基準	面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合語 合は、面接の得点が高い者を上位とする。	計点が同点	気の場		

(5) 看護栄養学部 看護学科

出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者 4 看護学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	ぐを 2027 ⁴	年3月		
	評価対象	配	点		
34 EQ 40 1 1 MY	・総合問題(国語、英語)	250			
試験科目等	・面接「個人面接」	200			
試験科目以外			500		
の評価の対象	・調査書(全体の学習成績の状況)	50			
となる事項					
【総合問題】 看護学科で学ぶための必要な学力として、国語(小論文を含み、古文・漢文を除く)の基礎的な学力、 読解力、論理的思考力及び表現力並びに英語の基礎的な学力、読解力等をみる問題を出題し、点数化 (国語 150 点、英語 100 点) して評価する。 【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。					
合否判定基準	総合問題及び面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を 点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。	:決定する	。合計		

(6)

)看護栄養学部	栄養学科		
出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 山口県内の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者 4 栄養学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	ぐを 2027 :	年3月
	評価対象	配	点
試験科目等	・面接「集団ディスカッション・個人面接」	200	
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(全体の学習成績の状況)	100	300
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、 <mark>論理的思考力・展開力、表現力、協調性・傾聴力、社会性化して評価する。</mark> 個人面接では、志望理由及び食と栄養に携わる専門職への興味・関心・動機等の質問にを通して、食と栄養等に関する知識・技能、さらにこれらの学びを深めていく必要性に思考力・判断力・表現力及び積極性を点数化して評価する。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。	対する対	力心能力
合否判定基準	面接の得点と調査書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合 合は、面接の得点が高い者を上位とする。	計点が同	別点の場

Ⅱ 地域貢献人材発掘枠

全学科共通事項

- 地域貢献人材発掘枠は、全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校 3年次を試験実施年度の3月に卒業(修了)見込みの者を対象とする。将来、地域の活力創出や健康づくりに貢献で きるリーダーとして、活躍が期待される人材の発掘を目的とする。そのために、学校の内外で意欲的に取り組んだ活 動等の過程、成果及び展望を積極的に評価する。
- 各学科のアドミッション・ポリシーに基づいて評価する。
- 調査書、推薦書及び活動報告書については、面接の参考として利用する。

学科別事項

(1) 国際文化学部 国際文化学科

出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 以下のいずれかの条件を満たす者 ① 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、公民の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者 ② 日本以外の国や地域に、小学校入学年齢以降に6カ月以上継続滞在した者 4 国際文化学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者					
	評価対象	配	点			
試験科目等	・小論文・面接「集団面接」	150 100				
試験科目以外	・調査書(全体の学習成績の状況)	50	400			
の評価の対象 となる事項	・活動報告書(*1)	100				
評価基準	【小論文】 文章の表現力とともに、国内外における社会的・文化的諸問題に関する基礎的知識、理判断力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接(英語面接を含む)を行い、国内外における社会的・文化的諸課題への関心度化に貢献しようとする意欲や態度、異なる文化を持つ人々との交流に必要な思考力・判で評価する。なお、英語面接では、英語で与えられた質問に対し、英語での応答と自己る。 【調査書】 「全体の学習成績の状況」を点数化して評価する。 【活動報告書】(*1) 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。	及び地域 断力を点 表現が求	えの国際 (数化し なめられ			
合否判定基準 小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。			者を決			

(*1)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・ 検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校にお ける学習活動等)を志願者本人が記載する。

(2) 国際文化学部 文化創造学科

出願要件 次の1~5の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を2025年3月に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者 4 文化創造学科に対し、適性を有する者					
	5 合格した場合は、必ず本学に入学する者	配	上		
	評価対象	,,,,	点		
34 EQ 10 10 Mm	・小論文	200			
試験科目等	・活動報告書(*2)によるプレゼンテーション	80			
하다 다 다 소리 4분	・面接「集団面接」	100	400		
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・調査書(国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、成績のよい2つの教科の学習成績の状況)	20			
評価基準	【小論文】 日本文化や地域文化の価値について自分の考えをまとめる上での読解力、構成力、論理力及び表現力を点数化して評価する。 【活動報告書(*2)によるプレゼンテーション】 集団でプレゼンテーションを行い、主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれにることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望や思考力、表現力を点数化して評価する。 【面接】 集団面接を行い、異なる文化や多様な考えを持つ人々と共に地域文化を創造する上で求思考力、表現力を点数化して評価する。 【調査書】 国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)の中で、成績のよい2つの教科の「学習成数化して評価する。	よって身 <mark>について</mark> められる 績の状況	に付け の 意欲 意欲や 」を点		
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点 定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。	順に合格	者を決		

^{(*1)「}芸術」が開設されていない場合は、「美術」又は「音楽」を採用する。

^(*2)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動 (生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等)を志願者本人が記載する。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

<u> </u>	情报性去于行 · · · · · · · · · · · · · · · · · · ·				
出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の国語、外国語又は英語、数学、情報(*1)の中で、「教科の学習成績の状況」が3.7以上の教科が2教科以上ある者 4 情報社会学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
	評価対象	配	点		
	・小論文	160			
試験科目等	・面接「集団ディスカッション」	100			
試験科目以外	・調査書(国語、外国語又は英語、数学、情報(*1)の中で、成績のよい2つの教科の学	60	400		
の評価の対象	習成績の状況)				
となる事項	・活動報告書(*2)	80			
【小論文】					
合否判定基準	小論文及び面接の得点と調査書及び活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点 定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。	順に合格	者を決		

- (*1) 「情報」の科目を他の教科の科目によって代替しており、かつ、調査書に「情報」の「教科の学習成績の状況」が記載されない場合は、代替科目の「科目の学習成績の状況」を採用する。なお、共通教科「情報」と専門教科「情報」のいずれも開設している場合は、成績の良い教科を採用する。
- (*2)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校における学習活動等)を志願者本人が記載する。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

/ 性去悔性子的	任去個位于行					
出願要件	3 人物・性行等、所属又は出身学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 4 学業成績優秀の者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者					
	評価対象	配	点			
試験科目等	・面接「集団ディスカッション・個人面接」	200				
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	•活動報告書(*1)	100	300			
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、意見の論理性、表現力、説得力、洞察力、議論全体を適切にすすめていく態度及び他者とともに語らうことができる能力を点数化して評価する。 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケーション能力及び論理的思考力を点数化して評価する。 【活動報告書】(*1) 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。					
合否判定基準	基準 面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定する。合計点が同点の場合は、面接の得点が高い者を上位とする。					

^(*1)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・ 検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校にお ける学習活動等)を志願者本人が記載する。

(5) 看護栄養学部 看護学科

"	自	自丧子 件			
	出願要件	次の1~5の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及びで 次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上の者	高等専門学	华校3年	
		4 看護学科に対し、適性を有する者 5 合格した場合は、必ず本学に入学する者			
		評価対象	配	点	
	試験科目等	・総合問題(国語、英語)	250		
	武	・面接「個人面接」	100		
	試験科目以外 の評価の対象 となる事項	•活動報告書(*1)	100	450	
	【総合問題】 看護学科で学ぶための必要な学力として、国語(小論文を含み、古文・漢文を除く)の基礎的な学力、読解力、論理的思考力及び表現力並びに英語の基礎的な学力、読解力等をみる問題を出題し、点数化(国語 150 点、英語 100 点)して評価する。 【面接】 個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。 【活動報告書】(*1) 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた資質・能力を、入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。				
	合否判定基準	総合問題及び面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順 る。合計点が同点の場合には、面接の得点が高い者を上位とする。	に合格者を	を決定す	

(*1)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・ 検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校にお ける学習活動等)を志願者本人が記載する。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

)看護栄養学部	宋養字科		
出願要件	次の1~6の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等 次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 人物・性行等、所属学校長(高等学校長等)が責任をもって推薦し得る者 3 物理、化学、生物、地学のうち2科目を履修している者 4 調査書の理科の「教科の学習成績の状況」が4.0以上の者 5 栄養学科に対し、適性を有する者 6 合格した場合は、必ず本学に入学する者	等専門学	校3年
	評価対象	配	点
試験科目等	・面接「集団ディスカッション・個人面接」	200	
試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・活動報告書(*1)	100	300
評価基準	【面接】 集団ディスカッションと個人面接を行う。 集団ディスカッションでは、 <mark>論理的思考力・展開力、表現力、協調性・傾聴力、社会</mark> 点数化して評価する。 個人面接では、志望理由及び食と栄養に携わる専門職への興味・関心・動機等の質 能力を通して、食と栄養等に関する知識・技能、さらにこれらの学びを深めていく。 理解力、思考力・判断力・表現力及び積極性を点数化して評価する。 【活動報告書】(*1) 主体的・協働的な学びの過程とその成果及びそれによって身に付けることができた 入学後の学習にどのように活かすことができるかの展望を点数化して評価する。	問に対す <mark>必要性に</mark>	る対応 <mark>関する</mark>
合否判定基準	面接の得点と活動報告書の評価点との合計で順位を決め、高得点順に合格者を決定 同点の場合には、面接の得点が高い者を上位とする。		

^(*1)学校の内外で意欲的に取り組んだ活動(生徒会活動、部活動、ボランティア活動、専門高校の校長会や民間事業者等が実施する資格・ 検定等、その他生徒が自ら関わってきた諸活動、各種大会・コンクール等、留学・海外経験等、特色ある教育課程を実施する学校にお ける学習活動等)を志願者本人が記載する。

【総合型選抜】

全学科共通事項

○ 総合型選抜において、合格者が募集人員に満たない場合は、その欠員分を一般選抜(前期日程)の募集人員に加 える。

学科別事項

)	《文化学部 国際	家文化字科			
次の1~4の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3年次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 次の①または②のいずれかの条件を満たす者 ①調査書の「全体の学習成績の状況」が3.5以上であり、かつ調査書の外国語又は英語の「教科の学習成績の状況」が3.8以上の者、②英語資格・検定試験の成績がCEFRの基準でB1レベル以上の者(※) 3 国際文化学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者					
		評価対象	配	点	
一次選抜	試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・自己推薦書	100	100	
二次 選抜	試験科目等	• 講義理解力試験	200	300	
(*1)	武 映 什 日 守	・面接「個人面接」(*2)	100	300	
【自己推薦書】(*2) 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして、入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかというがら、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。 【講義理解力試験】 講義理解力試験では、本学教員が模擬講義を受講し、その内容についてレポートを作成する成したレポートに基づきプレゼンテーションを行い、レポート及びプレゼンテーションを通て、知識、理解、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。 【面接】 個人面接を行い、国際文化学科での学びに必要な思考力・判断力・表現力及び主体性を点数			観点。作し		
て評価する。			書の「全 者を決定	È体の	

- (*1)二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。
- (*2) 二次選抜では、自己推薦書を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(※)出願要件2②の CEFR「B1」レベル以上とは、下表に示す各資格・検定試験のスコア又は基準値以上とする。

資格・検定試験	スコア・基準値	出願時提出書類
英検(実用英語技能検定)	1950 (ただし、2 級以上の試験を二次 試験まで受験した者に限る)	合格証明書、英検 CSE スコア証明書、個 人成績表のいずれか 1 点
GTEC(4 技能版)	<mark>930</mark>	「GTEC」 OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
TEAP(4 技能版)	<u>225</u>	成績表 (スコアレポート)
TEAP CBT	<u>420</u>	成績表(スコアレポート)
ケンブリッジ英語検定	140、または PET (B1 Preliminary)以上の認定	認定証、結果ステートメントのいずれか 1 <u>点</u>
<u>IELTS</u>	<u>4. 0</u>	成績証明書

- ・表中の資格・認定試験については、出願期間初日から遡って2年以内に受験したものに限ります。 ・各資格・検定試験の4技能全て受験する必要があります。 ・スコアを基準としているものについては、合否は問いません。

(2) 国際文化学部 文化創造学科

		次の1~4の全てに該当する者				
		1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3				
出願要件		年次を 2027 年 3 月に卒業(修了)見込みの者				
		2 調査書の国語、外国語又は英語、地理歴史、芸術(*1)、数学、情報(*2)の中で、	「教科の)学習		
		成績の状況 が 3.7 以上の教科が 2 教科以上ある者		. , .		
		3 文化創造学科に対し、適性を有する者				
		4 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
		評価対象	配	点		
	試験科目以外					
一次選抜	の評価の対象	・自己推薦書	100	100		
251/	となる事項					
二次	試験科目等	・個人プレゼンテーション	200	300		
(*3)	武 映 件 日 寺	・面接「 <mark>個人</mark> 面接」(*4)	100	300		
		【自己推薦書】(*4)				
		文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学				
		入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点				
		から、思考力、判断力、表現力及び主体性を点数化して評価する。				
		【個人プレゼンテーション】				
		与えられた課題 (文章、図表等も含む) について、その内容を理解し、みずからの考えをまとめ				
	評価基準	た発表資料(文章および絵図など)を作成し、その資料に基づいてプレゼンテーションを行う。				
		発表資料及びプレゼンテーションを通して、知識・理解、思考力、判断力、表現力及び主体性を				
		点数化して評価する。				
		【面接】				
		個人面接を行い、地域文化を創造する上で求められる意欲や <mark>思考力、表現力</mark> を点数化して評価す				
		<u>個人</u> 面接を打い、地域文化を創造する工で水砂的心気息軟化 <u>心与力、収光力</u> を点数化して計画する。				
		- つ。 - 一次選抜:自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。	》/	##D		
		一次選扱、自己推薦者の特点で順位を次め、同特点順に一次選扱占裕者を次足する。一次選扱の 合格者の上限は、24 人程度とする。 <mark>一次選抜において、得点が同点の場合は、調査書の「全体の</mark>				
	、不判空甘淮					
合否判定基準 		学習成績の状況」の数値の高い者を上位とする。				
		二次選抜:個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を				
		決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位	とする。			

- (*1)「芸術」が開設されていない場合は、「美術」又は「音楽」を採用する。 (*2) 「情報」の科目を他の教科の科目によって代替しており、かつ、調査書に「情報」の「教科の学習成績の状況」が記載されない場合 は、代替科目の「科目の学習成績の状況」を採用する。なお、共通教科「情報」と専門教科「情報」のいずれも開設している場合は、 成績の良い教科を採用する。
- (*3) 二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。
- (*4)二次選抜では、自己推薦書を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(3) 国際文化学部 情報社会学科

	人工子的 用取					
		次の1~4の全てに該当する者	66 - - 111 11	-1		
出願要件		1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高	等専門学	:校 3		
		年次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者				
	2 調査書の「全体の学習成績の状況」が 3.5 以上の者					
		3 情報社会学科に対し、適性を有する者				
		4 合格した場合は、必ず本学に入学する者	ı			
		評価対象	配点			
一次	試験科目以外					
選抜	の評価の対象	・自己推薦書	100	100		
二次	となる事項	±± Υ· τ□ Δη ↓ ¬λ.ΕΛ.	000			
選抜	試験科目等	・講義理解力試験	200	300		
(*1)		• 面接「個人面接」(*2)	100			
		【自己推薦書】(*2)				
		文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして大学				
		入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかという観点				
		から、 <mark>思考力・判断力・表現力</mark> 及び主体性を点数化して評価する。				
		【講義理解力試験】				
	評価基準	講義理解力試験では、本学教員が行う模擬講義を受講し、その内容についてレポートを作成す				
		る。作成したレポートに基づきプレゼンテーションを行い、レポート及びプレゼンテーションを				
		通して、 <mark>知識、理解、思考力・判断力・表現力</mark> 及び主体性を点数化して評価する。				
		【面接】				
	個人面接を行い、情報社会学科での学びに <mark>必要な思考力・判断力・表現力</mark> 及び主体性を点数化し					
		て評価する。				
		一次選抜:自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する				
合否判定基準		合格者の上限は、15 人程度とする。 <mark>一次選抜において、得点が同点の場合は、調査書の「全体の</mark>				
		1 A A A A A A A A A A A A A A A A A A A				
		二次選抜:講義理解力試験と面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を決定す				
		る。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。				

- (*1)二次選抜は、一次選抜合格者のみに実施する。 (*2)二次選抜では、自己推薦書を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(4) 社会福祉学部 社会福祉学科

)社会福祉学部 社会福祉学科					
Ļ	次の1~4の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3 年次を2026年3月に卒業(修了)した者又は2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 調査書の国語、地理歴史又は公民の「教科の学習成績の状況」がいずれも3.5以上の者 3 社会福祉学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
		評価対象	配	点	
一次選抜	試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・自己推薦書	100	100	
二次 選抜 (*1)	試験科目等	・個人プレゼンテーション・面接「個人面接」(*2)	100 200	300	
評価基準		【自己推薦書】(*2) 文章の表現力とともに、高校時代に地域貢献活動等に意欲的に取り組んできたこと験を活かして大学入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は地域共生社のように貢献したいかという観点から、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数である。 【個人プレゼンテーション】提示された課題に対し、その内容を理解し、自らの考えをまとめ、個人プレゼンテラ。個人プレゼンテーションを通して、知識・理解、思考力・判断力・表現力及び化して評価する。 【面接】 個人面接では、質問への対応能力・表現力から、社会福祉を学ぶ意欲、コミュニケー及び論理的思考力を点数化して評価する。	会の実現 化して評 ーション 主体性を	に を で た た 大 を 大 を 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大 大	
	一次選抜:自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する。 一次選抜の合格者の上限は、18 人程度とする。 二次選抜:個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格者を 決定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、面接の得点の高い者を上位とする。			者を	

- (*1)合格者のみに実施する。 (*2)二次選抜では、自己推薦書及び個人プレゼンテーションの内容を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(5) 看護栄養学部 看護学科

/ 有成不及于即 有。	\$ T 14				
	次の1~4の全てに該当する者				
	1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高等専門学校3				
	年次を2026年3月に卒業(修了)した者又は2027年3月に卒業(修了)見込みの者				
出 願 要 件	2 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上、かつ英語資格・検定試験の成	績が CEF	Rの基		
	準で A2 レベル以上の者(※)				
	3 看護学科に対し、適性を有する者				
	4 合格した場合は、必ず本学に入学する者				
	評価対象	配	点		
試験科目以外					
_{選抜} の評価の対象	・自己推薦書	100	100		
となる事項	/m 1 _2 , 10 , ~	222			
 選抜 試験科目等	・個人プレゼンテーション	200	300		
(*1)	• 面接「個人面接」(*2)	100			
	【自己推薦書】(*2)				
	高校時代の正課及び正課外学習の成果とそれによって得られた自分の強みについて、また具体的				
	な取り組み過程を根拠として示すという観点から、思考力、理解力、判断力・表現力、主体性、				
	協調性を点数化して評価する。				
	【個人プレゼンテーション】				
評価基準	出題された課題について、一定時間でみずからの考えをまとめ発表する。プレゼンテーション資				
AT IMAGES	料の作成は求めない。プレゼンテーションを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を点				
	数化して評価する。				
	【個人面接】(*2)				
	個人面接を行い、志望理由及び看護職への興味・関心・動機等を中心とした質問に対する対応能				
	力を通して、態度、理解力、判断力・表現力、主体性、社会性及び協調性に注目し、看護学を学				
	<u>ぶ意欲、対人関係能力、適性等を点数化して評価する。</u>				
	一次選抜:自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する	。一次選	抜の		
合否判定基準	<u>合格者の上限は、16 人程度とする。</u>				
	二次選抜:個人プレゼンテーションと個人面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に最終合格				
	者を決定する。二次選抜の合格基準は、合計得点率が 50%以上あること。二次選抜において、合				
	計点が同点の場合は、個人プレゼンテーションの得点の高い者を上位とする。				

- (*1)二次選抜は、一次選抜の合格者のみに実施する。
- (*2) 二次選抜では、自己推薦書を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。

(※)出願要件2のCEFR「A2」レベル以上とは、下表に示す各資格・検定試験のスコア又は基準値以上とする。

<mark>資格・検定試験</mark>	<mark>スコア・基準値</mark>	<mark>出願時提出書類</mark>
英検(実用英語技能検定)	1700 (ただし、準2級以上の試験を二 次試験まで受験した者に限る)	合格証明書、英検 CSE スコア証明書、個 人成績表のいずれか1点
GTEC(4 技能版)	<u>680</u>	「GTEC」 OFFICIAL SCORE CERTIFICATE
TEAP (4 技能版)	<u>135</u>	成績表(スコアレポート)
TEAP CBT	<u>235</u>	成績表(スコアレポート)
ケンブリッジ英語検定	120、または KET (A2 Key) 以上の認定	認定証、結果ステートメントのいずれか 1 <u>点</u>
IELTS	3.0	成績証明書

- ・表中の資格・認定試験については、出願期間初日から遡って2年以内に受験したものに限ります。 ・各資格・検定試験の4技能全て受験する必要があります。 ・スコアを基準としているものについては、合否は問いません。

(6) 看護栄養学部 栄養学科

/ 但護木食子印 木食子科						
ŀ	出願要件	次の1~4の全てに該当する者 1 全国(山口県を含む)の高等学校、中等教育学校、特別支援学校高等部及び高 年次を2027年3月に卒業(修了)見込みの者 2 調査書の「全体の学習成績の状況」が3.8以上の者 3 栄養学科に対し、適性を有する者 4 合格した場合は、必ず本学に入学する者	等専門学	校 3		
		評価対象	配点			
一次選抜	試験科目以外 の評価の対象 となる事項	・自己推薦書	100	100		
二次	34 EA 40 12 Mr	・個人プレゼンテーション	200	200		
選抜 (*1)	試験科目等	・面接「個人面接」(*2)	100	300		
【自己推薦書】(*2) 文章の表現力とともに、高校時代に意欲的に取り組んできたこと、またその経験を活かして入学後にどのようなことに取り組みたいか、卒業後は社会にどのように貢献したいかというから、思考力・判断力・表現力及び主体性を点数化して評価する。 【個人プレゼンテーション】 提示された課題に対し、その内容を理解し、みずからの考えをまとめ、個人プレゼンテーシを行う。個人プレゼンテーションを通して、知識・技能、思考力・判断力・表現力を点数化評価する。 【面接】 個人面接を行い、食と栄養について学ぶうえで必要な思考力・判断力・表現力及び協調性をして評価する。			観点 シ して			
	合否判定基準	一次選抜:自己推薦書の得点で順位を決め、高得点順に一次選抜合格者を決定する合格者の上限は、8 人程度とする 二次選抜:個人プレゼンテーションと面接の得点の合計で順位を決め、高得点順に定する。二次選抜において、合計点が同点の場合は、個人プレゼンテーションの得位とする。	最終合格	者を決		

^(*1) 二次選抜は、一次選抜の合格者のみに実施する。 (*2) 二次選抜では、自己推薦書の内容を面接時の参考とするが、評価の対象にはしない。